



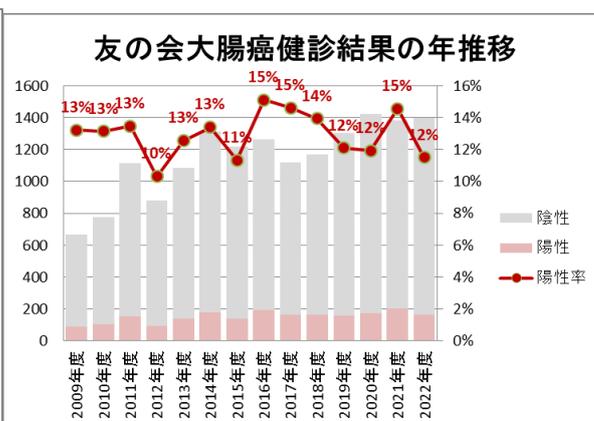
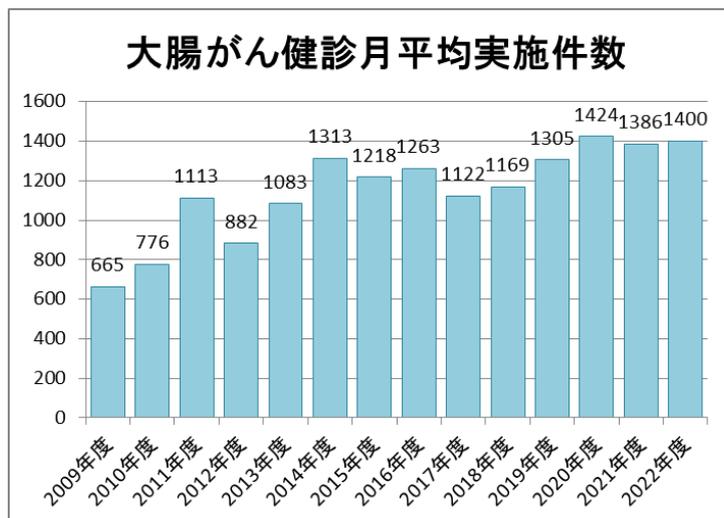
大腸癌健診結果

<大腸癌と便潜血検査 ～捨てるうんこで拾う命～>

大腸癌検査としてもっとも普及しているのが、便潜血検査です。当院でも健康友の会の患者を中心に「捨てるうんこで拾う命」を合言葉に大腸がん健診（便潜血検査）を勧めてまいりました。

便潜血検査は便を専用の棒でこすって採取し、血液が混じっているかどうかを調べる検査で、目に見えないわずかな出血も発見することができます。この検査にて2回の採取便の内1回でも血液が混じっていたら、内視鏡による検査が必要です。

大腸がんは、早期の癌はほとんど自覚症状がなく、大きく進行した後でないとは自覚症状がありません。この為、手遅れになるケースが多々あります。大腸癌を早期に発見する為に、定期的な便潜血検査を受けましょう。

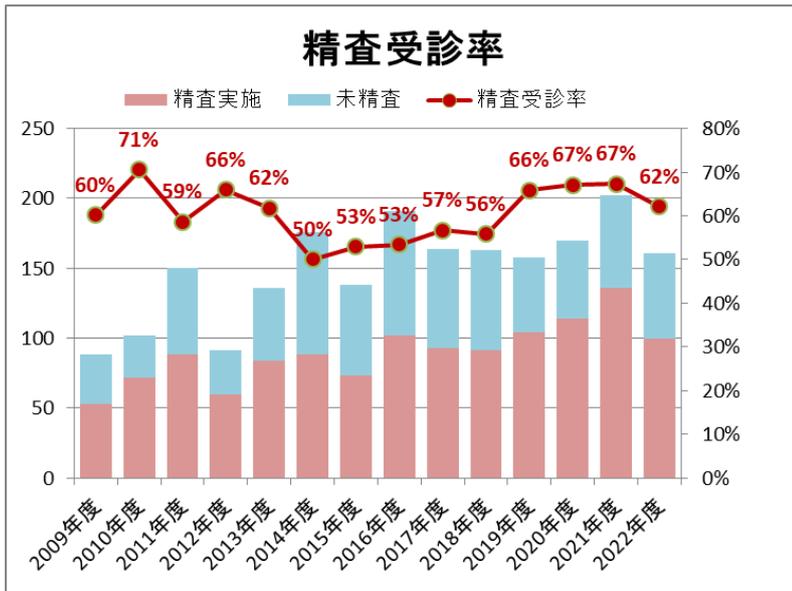


2022年度の大腸癌健診実施件数は微増しました。内、健診者における陽性の割合には15%⇒12%に減少しました。

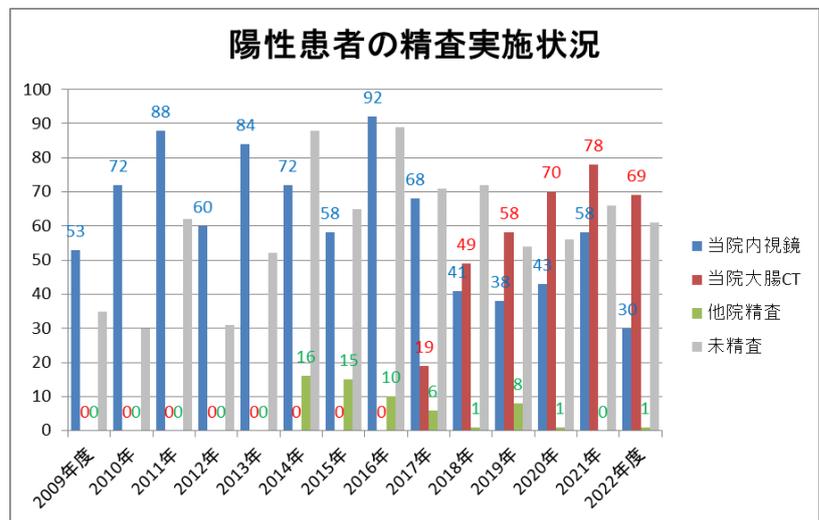
<便潜血検査で陽性がでたら、必ず内視鏡検査を！>

当院で便潜血検査にて陽性となった方に電話かけ等を行い、内視鏡検査や大腸CT検査などの精査をお勧めしています。

2022年度67%⇒62%に減少しました。



大腸CT検査の導入により、気軽に検査が受けれるようになり、精査実施において、大腸CTの占める割合が大きくなっています。

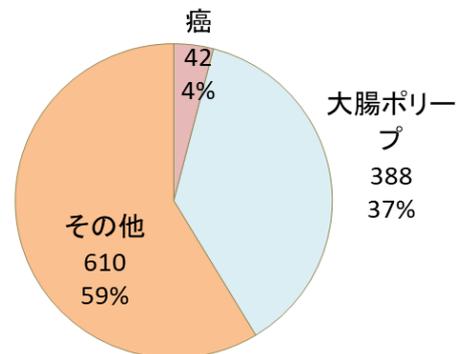


<精査結果>

諸統計データでは、便潜血で精密検査が必要とされる人は約6%（当院では12%）、うち内視鏡で癌が発見される方は約4%（当院4%）です。便潜血検査にて陽性となった患者さんから見つかる大腸癌はその多くが早期癌です。早期癌の段階で治療ができれば完治が期待できます。

また進行癌でも、症状が無く便潜血検査がきっかけで見つかった場合は、自覚症状が出てからみつかった場合に比べて他の臓器への転移が少ないとの報告もあります。便潜血が陽性になっても、精査を受けなければ、大腸癌の有無を確認することはできません。早期発見・治療の為に、便潜血検査で陽性反応が出た場合には、必ず内視鏡検査・大腸CTを受けましょう。

内視鏡検査を実施した患者の検査結果
*2012～2021年度



精査結果の年推移(実数)

